

科学英語最終プレゼンテーション

6月21日、28日、7月12日と科学英語の最終発表が開催されました。自ら研究してきたものを、ジェイムズ・澤田先生・松永先生のお力を借りて、英語に翻訳し、そして頑張って覚えてきました。過去この科学英語のプレゼンを見た、とある大学の先生は、「とてもレベルが高く、高校生がやるレベルのプレゼンではない。」とおっしゃっていたようです。ですから、みなさんにとってはかなりハードなタスクだったと思います。しかし、みなさんが堂々と、しっかり発表している姿をみて感心しました。とてもよくできたプレゼンだったと思います。



先生たちの声

過去、数回科学英語のプレゼンを見ましたが、この74回生のプレゼンが一番優れていました。お世辞抜きで、本当にレベルの高いプレゼンばかりでした。それぞれ自信につなげていってくださいね。

今までの科学英語のプレゼンを見てきましたが、本当にレベルが高くてびっくりしました。どのグループも素晴らしいプレゼンでした。

あとがき

5月末、75回生2年生の特設科学に、大阪大学の紀ノ岡正博先生に来て頂きました。その中で2つ、心に残った内容があったので紹介します。

1つ目は、「大学に入ってもいくらかでも新たな分野を勉強し始めることができる。高校の時にしてこなかったこと、できなかったことも、大学に入ってからでも間に合います。大学でどんどんチャレンジしてほしい。」

2つ目は、「大学院は生徒の3分の1が留学生です。講義を受けようと着席したら隣は外国人です。ですから、基本的に話すときも、授業資料もほぼ英語です。」

紀ノ岡先生は自身が阪大生の時、基礎工学部だったのですが、今現在、生物工学の研究をされています。このように、大学生になっても、大人になっても、どんどん新しい世界に飛び込んでいけるものなのです。ですから、「自分の興味の範囲はこれだけ。だからこれしか勉強しない…」などと自分の可能性を狭めないでください。若い時にアンテナを張って、幅広い知識を身につけたり、幅広い知識を身につけたいという姿勢は、必ず何かに結びつくはず。点と点はいつか結ばれます。でも、それがわかるのは未来の話。今自分がやっていることが、将来どう結びつくかはわかりません。無駄になることもあるかも。でも、たくさんの点を残しておいてほしいと思います。

2点目は英語の重要性です。紀ノ岡先生のお話の通り、みなさんが進みたいレベルの大学、特に大学院にはたくさん海外からの研究者が留学にやってきます。周りを見渡せばすぐ隣に留学生がいるのです。「日本の大学なのだから日本語をしゃべれ!」と思うのは簡単ですが、世界のあちこちからやってくる留学生とコミュニケーションを取るときに、英語の方が円滑に意思疎通をはかれます。大学の先生達も、日本語で作った資料やレポートを結局英語に直さないといけないので、もう最初から英語で書きちゃう人も多いようです。板書も然り。結論→「結局みんな英語を普通に使っているという状況になる。」

というわけで、今日までみなさんががんばったこの科学英語は、大学でやるべき内容の先取りですね。予習です。本当にレベルが高くて、準備も大変だったでしょう。しかし、この科学英語の経験は必ず役に立つと信じています。お疲れ様でした!